

議事録

日本学術会議 物理学委員会 IAU 分科会 (第 24 期第 1 回)

日時：2017 年 12 月 28 日 (木) 15:00-16:00

場所：日本学術会議 6 階 6-A(1)会議室

出席者：林、渡部、梶田、田近、藤井、山崎、相川、浅井 (skype)、生田、岡村、奥村、海部、芝井、須藤 (skype)、千葉 (skype)、常田 (skype)、永原、観山、村山 (skype)、山田、深川

欠席：佐々木、新永、杉山

オブザーバー：大石 雅寿 (国立天文台)、山岡 均 (国立天文台)

(順不同、敬称略)

1. 委員の紹介

オブザーバーの大石、山岡両氏から自己紹介があった。

2. 委員長、副委員長、幹事の選出

委員長：渡部潤一

副委員長：生田ちさと

幹事：山田 亨、深川美里

幹事について、天文学・宇宙物理学分科会と分けてはどうかというコメントがあった。今期は従来通り共通とし、業務量等について様子を見ることになった。

3. 23 期からの引き継ぎ、24 期の主要課題

岡村委員より、資料 3 に基づいて、申し送り事項を中心に報告があった。2019 年開催の IAU シンポジウムの提案は 39 件あり、うち 4 件が日本での開催 (3 件は日本人中心の提案、残りは三鷹での IAU 100 周年関連のシンポジウム) であることが説明された。

4. IAU 会員推薦について

応募者 43 名の確認を行った。博士号取得から 2—3 年以上経っていない 3 名については、今回は推薦できない旨を委員長より伝えることにした。また、外国人 1 名に関しては、日本からの推薦が良い (推薦国の変更は不可) という本人の意志が確認できる場合に限り、推薦することにした。委員長より、その他の新会員申請者へ、推薦決定の通知を送ることも確認した。IAU への推薦送付に際しては、役職を明記の上、委員長と副

委員長を2名の推薦人として登録することにした。

今回は、日本においてはジュニアメンバーへの応募がなかったことが確認された。

5. IAU2018年総会(GA)にむけて

早期登録への働きかけ等が必要になる点を確認した。また、3名の代表派遣に関連し、**National Representative**（全体会議に出る必要がある）とその他の役割の分担については、諸条件を勘案して委員長預かりでとりまとめ、後日、メールで報告することになった。

6. IAU100周年記念シンポジウム

海部委員より、資料5に沿って、IAU100周年記念行事の目的と内容の説明があった。ベルギーにある、IAUがまさに始まった場所においてキックオフが行われることや、その他**Flagship Programs**の紹介があった。日本の参加と努力が必要であることはもちろん、日本独自、あるいはアジアと協力してできることについては、日本天文協議会にて具体的な計画を固め、学術会議や天文学会に共催や後援を要請する見通しであると伝えられた。日本はIAU設立当初からのメンバーであるため、設立以来の日本の貢献を伝えつつ、天文学をさらに広めることを目指すのが良いという意見が、複数の委員より出された。

C（観山）：この機会をとらえて、一般向けのシンポジウムも広く企画すると良い。

C（渡部）：国立天文台で、日本天文協議会の参加各団体との相談を始めている。天文台が事務局としての機能を果たすことになる。

7. その他

- IAUシンポジウム「次世代観測装置による全波長モデリングの挑戦」の後援
芝井委員より、追加資料に基いてシンポジウムの概要が説明された。審議の後、本分科会として、学術会議へ後援申請する旨を承認した。
- 日本天文学会ジュニアセッションの後援
山岡氏より、例年通り手続きを進めている旨、報告があった。
- 世界天文コミュニケーション会議(CAP)
山岡氏より、3/24～3/28に福岡にて開催されるCAP2018の準備状況が報告された。プログラム案はすでに公開されている。当初の予想を大幅に上回る400以上の講演申込数、320以上の登録者があった。
- IAU活動への参加促進について
大石氏より、日本メンバーの運営への貢献が少ない点について指摘があった。これを受け、より積極的にIAU活動に参加するための具体的アイデアが議論された。

様々な場面で宣伝の努力を継続することが重要であるとの意見が多く聞かれた。

C (岡村) : IAU 側でも、ビジネスセッションと科学セッションを融合させ、参加しやすくする努力が行われている。天文月報での周知もしているが、新しい状況を踏まえてさらに宣伝が必要ではないか。

C (海部) : **Division** や **Commission** の組織メンバ (委員長等) へ立候補することが貢献になるという意識を持つことが重要だ。

C (岡村) : 例えば光赤天連などで擁立してもらうなど、立候補してくれる人をいかにリクルートするかがポイントだろう。

C (大石) : 立候補には、ある程度、IAU での活動経験が要る。戦略的にビジビリティを上げることと、小さい活動の積み重ねを同時に進める必要がある。

- 次回以降の分科会開催日程について (天文学・宇宙物理学分科会と合同)
2018 年は 4 月中旬～5 月、9 月下旬、12 月～1 月の計 3 回の開催を予定することになった。

以上